

## ごあいさつ

お客様のよき相談者として「身近で便利なホームバンク」を目指し、  
アルファバンク京葉銀行は、  
地域社会の皆様とともに歩んでまいります。

ホームドクターという言葉があるように、お金に関してお客様の良き相談者になりたい。

これがアルファバンク京葉銀行の目指す「確かな信頼感のある、身近で便利なホームバンク」です。

ここ数年の日本経済は、かつてないほどの激動の波にさらされ、金融機関や大企業の再編・統合が本格化するなど、今までの常識では到底計り知れない出来事が、相次いでおります。

しかしながら、当行では、現在の大転換期をお客様からのより一層の信頼を勝ち得るための絶好のチャンスであると考えております。

平成12年4月からスタートしています第10次長期経営計画「SUPER Plan 2005」のもと、「収益力の一層の強化と健全な経営体質の構築」の実現を目指し、役職員一同、全力で邁進してまいります。

今後共、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役会長 吉成 儀 取締役頭取 綿貫 弘一



取締役会長  
吉成 儀

取締役頭取  
綿貫 弘一

# 経営理念



## 私達の誓い

### 地域社会への貢献

私たちは地域社会に密着したスーパーリージョナルバンクとして  
豊かな地域社会づくりに貢献します

### 健全経営

私たちはバランスのとれた健全経営に徹し  
活力あふれる自由闊達な企業風土づくりにつとめます

### ベストバンク

私たちはたゆまぬ成長を合言葉に  
お客様から親しまれ信頼される地域のベストバンクを目指します

# 平成13年度決算概要(単体情報)

## 経営の環境

平成13年度の経済金融情勢を振り返りますと、脆弱であったわが国の経済は、世界的なIT(情報技術)関連需要の落ち込みを受け、輸出や生産が、大幅に減少することとなり、企業収益の悪化ならびに設備投資の減少をもたらしました。この調整圧力は、雇用や家計の所得環境にも広がり、個人消費面においても悪化の傾向を辿りました。

当行の主たる営業基盤であります千葉県経済につきまし

ても、国内経済と同様に、幅広い業種における減産体制により企業収益が悪化するなど、深刻の度を深めました。

このように私ども金融機関を取り巻く環境は、企業部門を中心とした景気後退を背景に、資金需要の低迷や相次ぐ金融緩和策による貸出金利の絶対水準の低下などを要因として収益面で極めて厳しい状況が続きました。

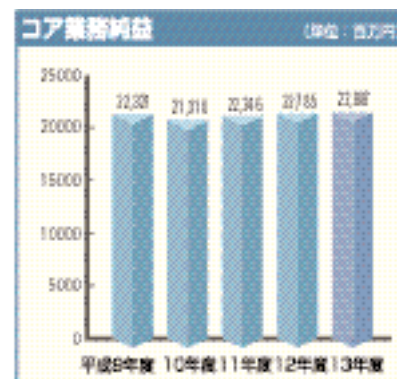
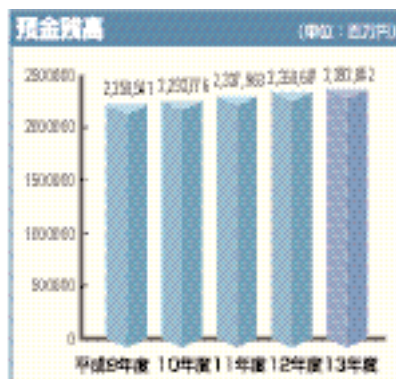
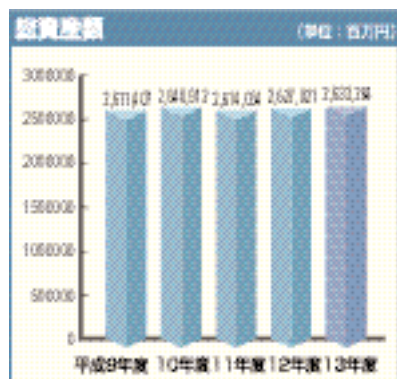
## 主な経営指標の推移

(単位:百万円・千株・人・%)

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
経常収益	82,420	78,146	76,279	73,824	70,861
業務純益	20,191	17,227	25,835	24,519	20,531
コア業務純益	22,321	21,310	22,246	22,785	22,807
経常利益	36,757	15,834	4,739	6,112	42,396
当期純利益	35,888	9,644	2,574	2,320	25,837
資本金	49,759	49,759	49,759	49,759	49,759
発行済株式総数	300,826	290,855	290,855	290,855	290,855
純資産額	127,969	142,417	143,537	147,952	117,017
総資産額	2,611,407	2,640,912	2,614,054	2,627,021	2,633,284
預金残高	2,250,541	2,293,776	2,337,963	2,360,607	2,392,842
貸出金残高	2,034,902	2,014,738	1,959,986	1,960,049	1,952,092
有価証券残高	244,299	259,561	276,518	372,267	415,673
従業員数	2,155	2,121	2,128	2,066	2,014
単体自己資本比率	9.42	8.75	9.24	9.46	8.35

(注) 1. 単体自己資本比率については、国内基準で算出しています。

2. 貸出金残高については、平成11年度・平成12年3月期より部分直接減額を実施しています。



## 当行の業況

平成13年度の当行の業績は、次のようになりました。

### 預金

平成14年4月からペイオフが一部解除となり、お客様が、取引する銀行をご自身の責任において選択する時代となりました。

このような状況の中、当行の預金残高は、2兆3,928億円となり、前年比322億円の増加となりました。中でも個人預金残高は、前年度に比べ、968億円の増加を示し、1兆9,466億円となりました。また、総預金に占める個人預金の割合も3.0%増加し、81.3%となりました。

このことは、数多くのお客様から厚い信頼をいただいていることの表れであると認識しております。

### 貸出金

長期低迷する経済環境の下、千葉県内の中小企業等法人部門の資金需要が伸び悩む中、当行は住宅ローンを始め、個人向けのローンを積極的に推進しました。その結果、住宅ローンについては、前年度に比べて、413億円の増加と、大幅な伸びを記録しました。

また、中小企業等を中心に新規融資取引を専門的に推進する、融資推進グループが中心となり、これまで当行とお取引の無かった中小企業との取引も大幅に増加しました。

しかし、全体的な資金需要の伸び悩み、不良債権の積極的な処理により、貸出金全体では、79億円の減少となりました。

### 損益

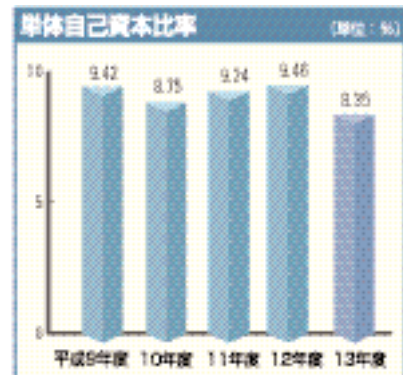
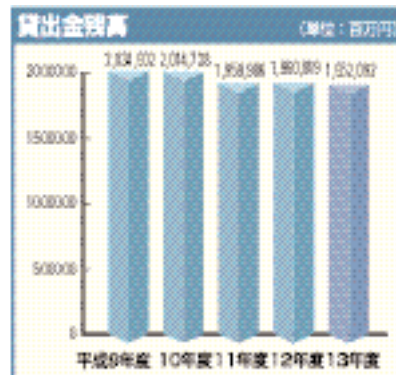
平成13年度は、健全な経営基盤の確立の為、不良債権への予防的引当も含めて、貸倒引当金繰入額を大幅に増加させました。その為、423億円の経常損失を計上しました。

### 有価証券

有価証券の当期末残高は、4,156億円となり、対前年比434億円の増加となりました。

(単位:円・%)

	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
1株当たり純資産額	425.39	489.64	493.50	508.68	405.97
1株当たり配当額	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
1株当たり当期純利益	119.30	32.60	8.85	7.98	89.17
配当性向	-	-	56.49	62.67	-



# 平成13年度決算概要(単体情報)

## ■ 当行の対処すべき課題

国内における景気は、今後も低迷するものと懸念され、引続き厳しい状況にあると予想されます。また、ペイオフ凍結解除、金融機関の再編・統合の本格化に加え、確定拠出年金業務を始めとする新規業務の取扱い開始など当行を取り巻く環境は、従来とは比較にならないスピードでかつ大きく変化しており、今後も競合は一層激化していくことが予想されます。当行では、この激しい構造的環境変化を新たなビジネスチャンスと捉え、平成12年4月からスタートしました第10次長期経営計

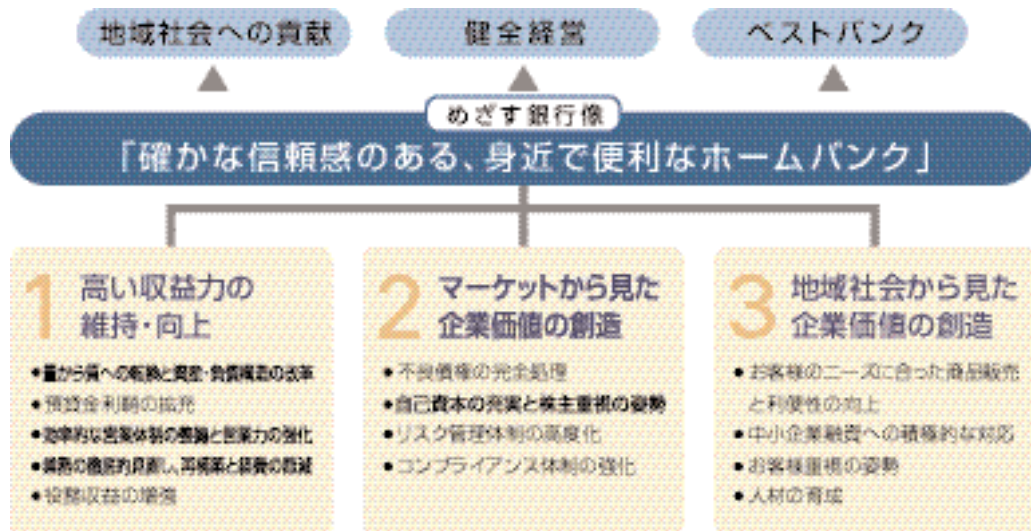


画「SUPER Plan2005」のもと、地元千葉県における営業に特化し、独自のサービスによる地域密着型の高密度の営業により他行のみならず他業態に先駆けて積極的に行動していきます。そのために、お客様の視点に立った金融サービスの提供を旨とし、多様化するお客様のニーズを高い次元で満たしていくことができるソリューション型の営業を可能とする体制の強化を図っていきます。さらに、最重要課題であります不良債権問題につきましては、実効的回収の促進に加え、問題債権の健全化策を実施するなど不良債権の処理方法の多様化による解決に向け積極的に取り組んでいきます。

今後、当行の業績を目に見える形で回復させ、盤石な経営基盤を確立していくために、これら対策に役職員一丸となって全力をあげて取り組んでいく所存です。

今後、当行の業績を目に見える形で回復させ、盤石な経営基盤を確立していくために、これら対策に役職員一丸となって全力をあげて取り組んでいく所存です。

## ■ 第10次長期経営計画「SUPER Plan 2005」



スローガン

「金融サービス業として、地域との強固なパートナーシップを構築しよう!」

### 「SUPER Plan 2005」のネーミングについて

「地域金融機関として地域のお役に立ち、収益力の強化と健全経営により、お客様から厚い信頼をいただき、地域のベストバンクへと進化していく。」という意味を表しています。

S .....Sound Banking(健全経営)  
U .....Useful(地域のお役に立つ)  
P .....Profit(利益、収益)

E .....Evolution(進化・発展)  
R .....Reliance(信頼、信用)

## 平成13年度の当行の成果

### 不良債権の徹底処理

平成13年度は、先行きの不透明な経済・金融環境の中、不良債権の処理を重点課題とし、資産の自己査定をより厳格化したことにより予防的引当を含む大幅な償却・引当を実施し、不良債権処理に関して一応の目処を付けることができました。

今後、不良債権の実効的回収の促進に加え、債権健全化策を実施するなど様々な形で資産の良化を図り、取組みを強化していきます。

### 住宅ローンを中心としたリテール戦略の推進

当行では、土曜・日曜・祝日における住宅ローンの相談を千葉・成田・船橋・柏の4ヶ所の各ローンプラザで受付けています。

資金のお使い道や金利など、幅広いお客様のニーズにお応えするよう、積極的に取り組みました結果、住宅ローンについては、前年度に比べ413億円残高が増加しました。

今後も地域のお客様のニーズに応えるべく、住宅ローン・個人ローンを積極的に推進していきます。

### 良質な経営資産の構築

法人との融資取引におきまして、将来の優良基盤の強化を図るべく平成13年10月より「融資推進グループ」を営業統括部支店課に新たに設置し、新規法人取引の開拓を積極的に推進しました。その結果、6ヶ月間で771先ものお客様と新たにご融資のお取引を始めることができました。

### 身近で便利なホームバンク

当行では引続き、給与振込・年金振込のお客様を対象としてキャンペーンや様々なサービスを実施しました。

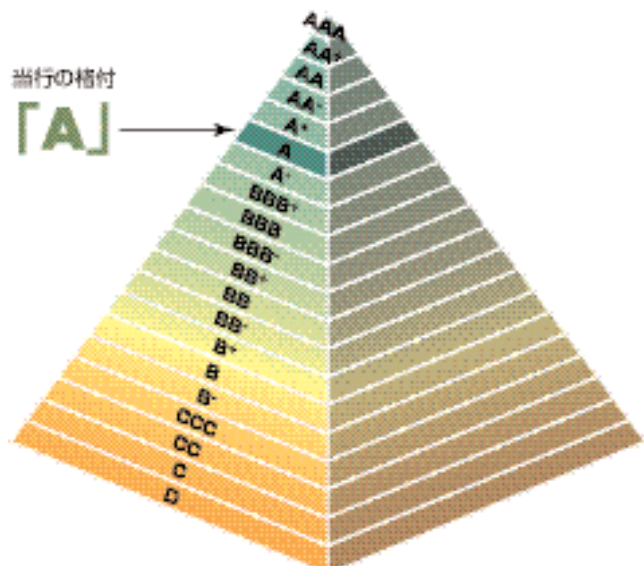
また、自動貸金庫サービス、ATM機能の一層の充実、パソコンや携帯電話などモバイルツールを利用したダイレクトバンキング、コンビニエンスストア等においてご利用になれますATM「E-Net」網の拡充等「身近で便利なホームバンク」として、お客様へのより一層のサービスの充実に努めました。

## 格付機関による当行の評価

株式会社日本格付研究所(JCR)によりますと、当行の格付は、長期優先債務について「A」となっています。

### 格付

(株)日本格付研究所など、第三者の格付機関が、銀行や企業の安全度をアルファベットを使って表したものです。銀行の選定や企業へ投資をする時の一つの参考として利用される事があります。



(平成14年3月31日現在)